

くらくと
黒雲
太帝

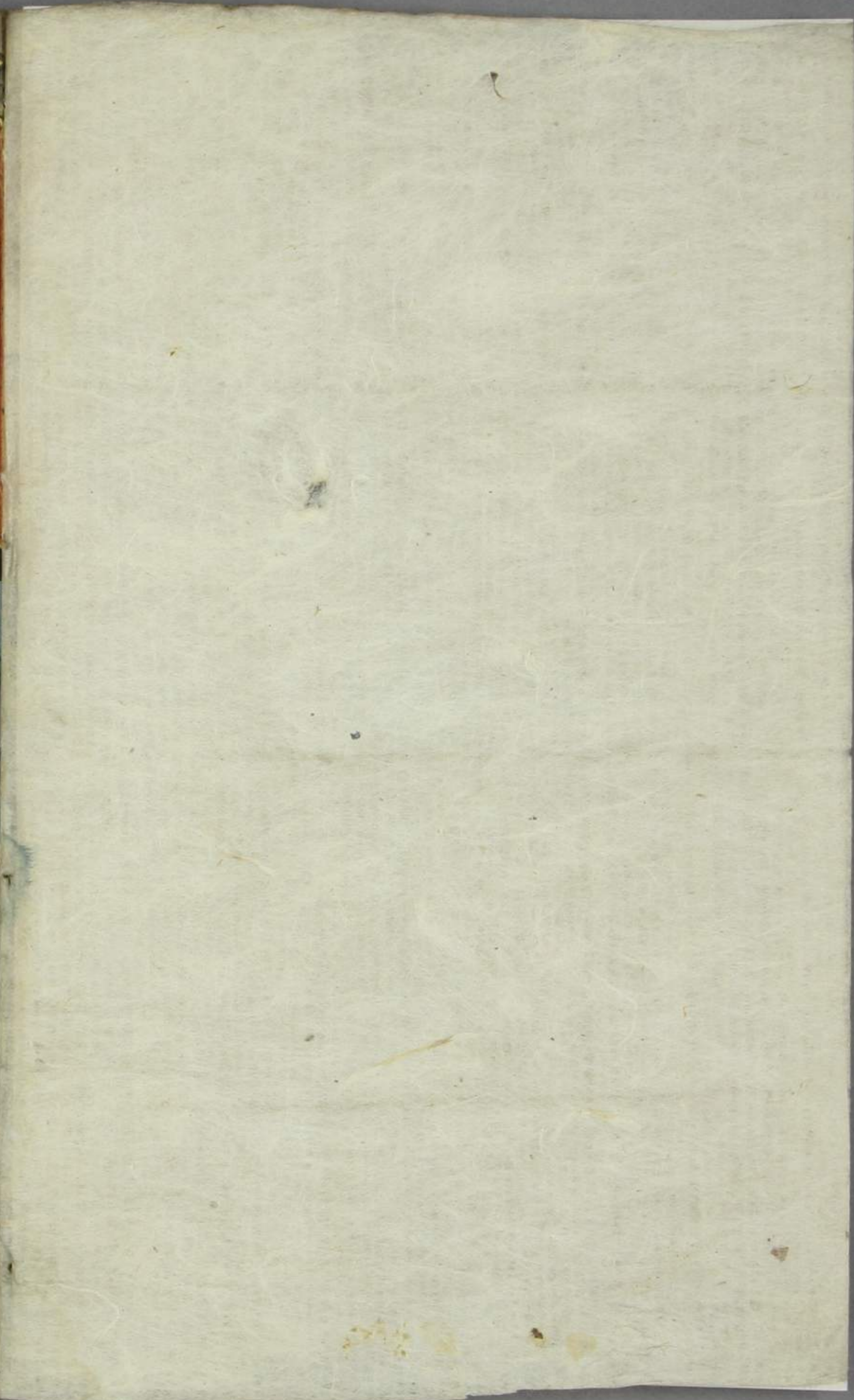
あめ
雨

よりのめたり
夜譚

校合 市川三軒
作者 乾坤坊良齋
画工 溪齋扇英泉

へ13
2483
20





黒心雲太郎雨夜譚

校合 市川三升

作者 乾坤坊良齋

画工 溪齋英泉

文政初春新板

全六冊

前編

南傳馬町一丁目

紅英堂

蔦屋吉藏板

遠近特
2483
20



夫天地と一大戲場あり山川江海の諸道具は日月乃
 皆造物者法無盡藏より出善因悪報さき定やうぬめ
 船のひ藤言を双六賽のちやう目と目との相界さう如
 愚心つひらると一小冊天地の戲場をうごころ寸心は
 善悪邪正の諸道具をせしやう頼見世の為序幕
 を披く諸君の評判を頼ふ次乃ち色と来春の船向を
 待て日見ぬ

春新版

市川三升校合

良齋誌



文覚上人悪魔伏

高尾の文覚



僧の文覚上人、渡邊の
黨を遠藤左近將監
盛光が子に
十八才に
出家は、
荒行の内木曾山の奥
鬼ヶ嶽、天地をわらゆる悪
魔を封じ、あつた後、年に勢天狗
坊雷元が、あつた伏魔殿を破ら
百の悪魔四方に飛んで源家
頼家の代一度乱る

小蠟
神ハ眞
残口



山熊平吾
中納言友盛の中心臣やくあひの
首級と守護あり
太郎と守護あり
木曾の平吾の火是なり

稲妻御前ハ友盛卿の妻と
執念源家小あせんと鎌倉
御野は美を放し頼家とあり

稲妻の靈魂



化物の
生躰
枯尾花
也由

雷元本曾の
伏魔殿の

首塚
妖法
行

天狗坊雷元の
教經の郎黨
童臣の菊王
九人の
残言よあつて
討死をのかれ
後年本曾の鬼ヶ嶽
中伏魔殿といふ
悪神と四方まゝら



天狗坊
雷元

主馬小金吾
盛久
子伏
魔殿百
人の首塚
といふ九十九人の
首をさるる百人ぬ
私通の娘をよの壺をさる
心の中より是を放て首の
を合せ非道の大願をこころ



主馬小金吾

男女相對死の場をみよ人を起して
まゝ人のつらみののふれこのまゝ私通の
女をさるるころころとさるる

釣瓶
まの

死神
を
お
それ
冬の
月
良
於
佐
登



角田川の渡守女海盜都鳥のお松の悪七兵衛
 景清が妻都五茶坂の掟君阿古屋へ夫景清
 行方まればさるに後まき川の守と
 るの初末の旅人を舟
 中殺し路費
 を



老女房や
 花のたの
 良齋

都鳥の於松

源家子仇
 せんとうるる



浅草寺の一家の老女山岩波ハ
 安徳天皇の宦女曲の局より
 天皇を娘としてまのを世身
 軍用金をめんと
 旅人をとめて石の
 枕をさせ大石を
 おとし命をよこ
 敷くは是も後年
 よるる



日々
 くれと
 舟のりまき
 とも宿るる
 浅草寺の
 ひらりかのり

一箇家の
 岩波

黒雲の太
 郎小
 ちさか



はつちのあまのこ
こころのこころの
こころのこころの
こころのこころの
こころのこころの
こころのこころの
こころのこころの
こころのこころの
こころのこころの
こころのこころの

コトよききりあはれこれくハ世はぬきんげ
大づりあひりあはれこれくハ世はぬきんげ
おすめとあはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ

あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ



あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ

あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ
あはれこれくハ世はぬきんげ

市川三升板合

乾神坊良富作

浮海

くろくも くらう あまよものごころ

黒須云太郎雨夜譚

淡島草子画

紅葉堂

善転板

上梓



雨夜譚



こればけやのろう女とわすれ
山五郎五郎すいずめありのこころ
ういあてあすのこころのすけの
つねとあんとく夫とあま
名をあらわす
あてて
つねのあまの
と名をあらわす
ういあてあすのこころの
つねとあんとく夫とあま
名をあらわす
あてて
つねのあまの
と名をあらわす



こればけやのろう女とわすれ
山五郎五郎すいずめありのこころ
ういあてあすのこころのすけの
つねとあんとく夫とあま
名をあらわす
あてて
つねのあまの
と名をあらわす
ういあてあすのこころの
つねとあんとく夫とあま
名をあらわす
あてて
つねのあまの
と名をあらわす

大まきよよろこびて又らの
 はんよりの十方のれい
 りのをうまひとるをき
 ちのをめよとらるる
 らのをそととらる
 云々これ天の屯
 けれりちをうむりよ
 るのく死とありや
 そのけのやあかき
 とみつるちまら
 そのひたりうて
 みまここののまら
 女あきえどの
 むの幅うりよ
 りでちひとら
 のいひまら
 ちのいまのを
 とそりらのげん
 ちのちとら
 りのちとら
 ちのちとら
 ひまらるるま
 いちのちとら
 りえそのあり十人の
 のちまら



大まきよよろこびて又らの
 はんよりの十方のれい
 りのをうまひとるをき
 ちのをめよとらるる
 らのをそととらる
 云々これ天の屯
 けれりちをうむりよ
 るのく死とありや
 そのけのやあかき
 とみつるちまら
 そのひたりうて
 みまここののまら
 女あきえどの
 むの幅うりよ
 りでちひとら
 のいひまら
 ちのいまのを
 とそりらのげん
 ちのちとら
 りのちとら
 ちのちとら
 ひまらるるま
 いちのちとら
 りえそのあり十人の
 のちまら

あひひくよのせとちさかあてくま所のいひよ
 せとちさかあてくま所のいひよ
 まららけりまららけりまららけりまららけり
 せんすいせんすいせんすいせんすい
 ちのちとら
 いちのちとら
 りえそのあり十人の
 のちまら



あひひくよのせとちさかあてくま所のいひよ
 せとちさかあてくま所のいひよ
 まららけりまららけりまららけりまららけり
 せんすいせんすいせんすいせんすい
 ちのちとら
 いちのちとら
 りえそのあり十人の
 のちまら

